

# 《サークル「までい」活動報告》

(2012年9月～2014年5月)

## 東京で出来る飯舘村の暮らし再生支援



制作:サークル「までい」メンバー

人々がかつて経験したことがない原発事故～生活環境への放射性物質流出という被害を受け、避難生活を強いられている福島・飯舘村の方々。ふくしま再生の会では、飯舘村の自然環境における放射能測定を継続的におこない、そのデータを蓄積、世界に発信するという作業を行っています。

サークル「までい」では、近い将来飯舘に戻り暮らしを再生するための一助となることを願いつつ、その一連の作業の中で、東京に居ても出来る部分の作業を手伝っています。

### Q: どんなことをしているの?

A: 「真手い」とはふくしまの方言で「手間暇を惜しまず」「丁寧に」「時間をかけて」「心をこめて」という意味です。飯舘村で採取してきた試料を放射能測定用のサンプル容器(バイアル)に詰めて放射性同位元素施設(RI)で測定します。(試験栽培した稲、土壌、イノシシ、キジ、ネズミ、野生猿、キノコ、アケビ、苺、ふきのとう等々…)

測定結果を記録、データ化して1年毎に比較変化を記録しています。

測定後のサンプルは飯舘村内に保管されます。

### Q: どんな人が参加しているの?

A: 東大の職員・教員・学生・ふくしま再生の会在京会員の方々、合わせて15名ほど

### Q: どんなどころで活動しているの?

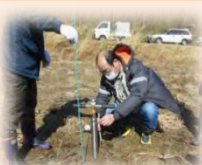
A: 農学部サークル室(農学部1号館地下1-2号室)

### 放射能測定までのサンプル作成の流れ

放射性同位元素  
radioisotope  
略してRI



#### 【土壌】



アクリル円筒を土中に差込み、土壌を採取する



採取した土壌…羊羹のようです!



円筒から押し出して1cm～2cmにカット



土壌をほぐしバイアル容器に詰める



詰め終わったバイアルはRIで測定

#### 【稲】



飯舘村で刈り取った稲を脱穀して籾にする



サークル室に送られてきた籾を籾搥り機で玄米にする



測定用容器に詰める



玄米と籾殻、其々放射能測定する

#### 【イノシシ】



捕獲されたイノシシ2頭



現地で解剖



其々の臓器を切り分け作業



バイアルに詰められたイノシシ試料



★ 次のポスターで、サークル『までい』の活動から得られた稲の試験作付結果を報告します。